

うやなぎ

発行責任者
会長
鑄山 元生

植柳校区人口 (令和6年11月末現在)	
男	2,009名
女	2,272名
計	4,281名 (-106名)
※令和6年4月末より	

明けまして

おめでとございませう



植柳校区
住民自治協議会

会長 鑄山 元生

校区の皆様、明けましておめでとございませう。ご家族お揃いで素晴らしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、年始めから、能登半島大地震、海保飛行機と日航機の衝突事故発生、また、円安による物価上昇、闇バイト強盗連続殺人事件、政治資金問題等と数えれば、いろいろなことがありました。



そんな中、ふるさと祭り植柳盆踊りは、八代亜紀さんの追悼も兼ねて開催しました。

そして、竹灯籠作り、追悼花火と皆様のご協力を頂き、大いににぎわい、今までにないふるさと祭りが出来ました。

秋には、植柳コミュニティセンターにおいてふれあい祭りを実施しました。子どもからお年寄りの方まで、踊りや演奏などを披露していただきました。百合学園の生徒の皆さんも二年連続で出演いただき、心温まる夢の演奏がありました。

また、日頃いきいきサロンで作成した作品展、各クラブの皆さんの作品等、いろいろな協力あつこのふれあい祭りでした。

第20回八代市校区対抗駅競走大会 堂々の第8位 躍進賞



一月十九日(日)県営八代公園陸上競技場を九時三十分スタート。沿道の声援にこたえて、見事第八位入賞おめでとございませう。選手、スタッフ、応援の皆さんお疲れさまでした。

世代交流会



スリッパ飛ばしゲーム



ホッケーゲーム
(元町公民館)

十月二十七日(水)十時より町内ごとに公民館でいきいきサロンの皆さんと第三中学校の生徒との世代交流が開催されました。この行事は、数年前から年一回行われています。皆さん大変楽しんでおられました。

ふるさと祭り 植柳盆踊り

(新たな取り組み)

昨年の八月十四日に植柳小学校のグラウンドにおいて第三十九回ふるさと祭り植柳盆踊りが行われた。

大太鼓芸能集団「紬衣」による迫力ある演奏で幕が開き、黒頭巾を被った衣装で植柳盆踊り保存会の方が植柳盆踊りを披露された。

その後、参加者も加わり熱気に包まれ例年ない盛り上がりを見せた。



今年度、新たな取り組みとして、校区の有志のご協力のもと歌手八代亜紀さんの追悼の意を込めた花火、ナイアガラ滝がとても圧巻でした。

また、有志が、竹を切り出し、子ども達も手伝って植柳の宝である「栽柳園」を、約二百本の竹灯籠で飾り付けました。その光景は、幻想的でふるさと祭りに華を添えてくれました。

他に子どもの家、幼稚園・保育園児も紙灯籠をつくりに参加してくれました。あわせて三百三十三本になりました。

地域住民の方々も驚きと感動に包まれたフィナーレで幕を閉じました。



植柳盆踊りに携わって

植柳盆踊りは、伝統芸能で現在、国指定無形民俗文化財に指定されています。

私も永年保存会の一員として携わり活動していますが、私も含め保存会員の高齢化が進み、踊り手も年々少なくなっています。

以前は、現元町公園で盆踊りを踊っていましたが、現在は、ふるさと祭りで、植柳小学校グラウンドで行われています。

また、植柳小学校の運動会の全校遊戯で盆踊りが踊り継がれています。数年前からコロナ禍で中止になり、これから先、若い世代に引き継いでもらえていけるのだろうかと不安の思いをしていましたが、幸いにも五年ぶりに全校遊戯に盆踊りを復活していただきました。

久々に全校児童が楽しく踊る姿を見て、大変感激し、胸が熱くなりました。小学校で盆踊りクラブもでき、十名の児童が、ふるさと祭り植柳盆踊り、市の文化祭、いすかし集会で優雅な舞を披露してくれました。

また、十二月に宇土市民会館で行われた地域伝統芸能祭に、保存会も出演し植柳盆踊りを県内にPRすることができました。



地域伝統芸術祭り(宇土市民会館)

江戸時代から踊り継いでこられた伝統ある「植柳盆踊り」の後継者育成などに力を入れ、今後も伝統をつなげていきたいと思っています。

踊り手、口説き手を募っています。楽しく踊ってみませんか。

植柳盆踊り保存会 会長 和久田 静夫

やまと文化の森にて まちづくり研修に参加して

植柳校区自治協議会では、十二月二十六日(火)に山都町のやまと文化の森にて「八朔祭り」をとおしての町おこし活動の研修を行いました。

山都町の「八朔祭り」は、大造り物の制作と展示で有名で、県下でも有数のイベントとなっています。

研修では、「八朔祭り」や大造り物制作に関わられる役員の方から説明を受けました。



地域・町おこし活動においては、日頃より地域住民のコミュニケーションに気を配り、後継者育成が難しくなっているもの、できる限り地域行事との関わりを持たせるよう取り組んでいるとのことでした。

山都町における地域・町おこしの取り組みを学び、今後の「植柳ふるさと祭り・植柳盆踊り」や「ふれあい祭り」を通して、植柳校区における地域・町おこし活動の活性化に生かしていきます。

植柳住民自治協議会

事務局長 橋口 一博

「八朔祭り」

江戸時代中ごろから、形を変えながら受け継がれている。田の神に感謝し、収穫の目安をたてる日とされる八朔(旧暦八月一日)に豊作祈願と商売繁盛を願い、八朔祭りをしている。

やまと文化の森は、山都町の観光文化の情報発信地。町おこし協力隊の募集を行い地域の活性化に努めています。

ふれあい祭り

校区の三人行事の二つであるふれあい祭りが十月十六日(土)に行われました。

新たな取り組みとして、福祉会やい草手まりの会による販売、編み物教室の展示、外部からの援助などがありました。

ステージ部門では、かわいらしい保育園児の演技、白百合学園箏曲部、三三三曲部のすばらしい演奏、小学生太鼓クラブに町内会長も参加、各町内のいきいきサロンの出し物など多彩な催しで、にぎわいをみせました。

また、防災ステージでは、松本康雄防災士(植柳担当)さんによる避難所開設など自主運営ができ、校区で取り組むようにしてほしいとの話がありました。

ファイナーは、県や九州、全国のアマチュア大会で活躍された植柳万理さんが「おもちゃ」などを歌われ場内が盛り上がりました。



防災

大きな災害は、忘れた頃にやってくるとよくいわれますが、防災、危機意識を持つためにも自主防災避難訓練は町内、校区の取り組みが大切です。

そのためには、毎年、避難誘導、消火活動、心肺蘇生、災害の講話など積極的に取り入れることが必要です。また、連帯意識も芽生え、いざという時に役立ちます。

(下二町内)



雨の中の避難誘導訓練



講話(災害に備えて)

交通安全

命を守る横断歩道完成

昨年十一月に念願の横断歩道が下町の三差路に完成しました。三年前、子ども達が登校する時間に三重衝突事故が起きました。大福寺町方面から来る自動車が一歩停止線で止まらず、登校する子ども達に接触しそうな事故が数件ありました。交通安全協会、町内有志の方と町内会長の代表が、警察署と市に出向き、横断歩道設置と一旦停止場所の変更、大きいカーブミラーの設置要望の嘆願書を提出しました。受理されて、約五か月で設置されました。



敬老会

町内初めての敬老会式典

敬老会は、今年度から各町内で実施するようになりました。下二町内は、九月十五日(日)下二自治公民館で約三〇名が参加して行われました。

会長お祝いのことば、小学生作文発表、祝い品贈呈、余興、敬老会代表のことばがあり、約一時間で終了しましたが大盛況でした。参加者の中から、足腰が悪いので、会場が近くになったので、参加できてよかったとの声がありました。



環境美化

町内一斉清掃



(大福寺町公園) 12/8



(上2広場) 10/27



(上1 天神の森) 10/23



(下町児童公園) 10/27

健康

インフルエンザの予防

- ・流行前ワクチン接種
 - ・手洗い、うがい
 - ・適度な湿度の保持
 - ・十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取
 - ・人混みへの外出を控える
 - ・咳エチケットの遵守等
- ※インフルエンザはくしゃみや咳の飛沫、接触感染で起こる。高熱や関節の痛みを伴い重症化しやすい。一人ひとりが「かからない」「うつさない」対策を心がけましょう。



令和六年度 敬老会対象者数

町名	人数	77歳
上1	164	17
上2	97	6
元町	134	12
下1	133	11
下2	100	14
大福寺	164	21
施設入所	42	
計	792	81

※90歳上の方(校区)130名
※敬老会対象者は校区の人口の18.5%

環境美化推進善行者表彰受賞



大福寺町内のシエントルマン会(シエントルマン会)二十四名の会員の皆様が、永年の児童公園や大日堂の清掃活動が認められ、表彰されました。受賞誠におめでとうございます。

編集後記

今年の干支は「巳」年、山口県岩国(錦帯橋の近く)に白蛇神社がある。白蛇は、金運、商売繁盛、健康長寿のご利益がもたらすといわれてパワースポットになっている。

巳年の出生は二〇二万人(令和七年二月一日現在 総務省統計局)で、男性四八五万、女性五〇六万、十二支では八番目である。ちなみに一番多いのは子年生まれで二七〇万、戌年が最も少なく二〇五五万人だそうである。

今年も八丁山山頂から上がる初日の出を河川敷に見に行った。日の出時刻七時二十分頃。天気快晴、気温二度。今年はきつといことがありますがように祈願した。

令和七年は、昭和百年にあたる。これを機に年賀状のやり取りが急激に減った。昨年の十月に郵便料金が値上がりした。通常はがきが六十三円→八十五円定額郵便物八十四円→百十円と。年賀葉書の一人当たりの枚数が半分以下に減ったそうである。

能登半島地震が起きて、二年が過ぎたが、いまだ復興のめどがたない地域があるという。早い復興を願う。

今から三十年前、平成七年(一九九五年)十月十七日、午前五時四十六分に震度七の阪神淡路大震災が起きた。未明だったため、約六千四百人の方が亡くなられ、大被害となった。震災で培われた「きずな・支え合う心」「やさしさ・思いやり」の大切さを次世代に語り継ぐためのイベントが行われた。これらの教訓を私たちも生かしていきたい。今年もよろしくお祈りします。

(下二町内会長 森山雅彰 文責)

